

# 開発途上国における財政運営上のガバナンス問題

調査研究報告書

小山田 和彦 編

2010年3月

独立行政法人日本貿易振興機構  
アジア経済研究所

## はじめに

開発途上国における財政運営上の諸問題に関する研究は、まず財政学に基づく理論的かつ技術的な部分から進められ、その後、財政システムをうまく機能させるための枠組みとして統治機構や制度、行政能力などガバナンスの問題が取り扱われるようになった。近年では、法整備やその実効性の追求、組織のあり方など、制度上の問題が独立して議論されるケースが増え、もともと根本にあった財政問題との関連性が不明瞭になりつつある。

そこで、「ガバナンス」という様々な側面を持つ包括的かつ抽象的な概念の中でも、予算制度・課税・再分配政策・債務管理など財政運営に関する重要項目と特に深い関係を持つ項目を再確認し、その改善が財政システムに与える効果を考察・分析することを目標として本研究会を発足させた。開発途上国の財政運営について考える際には国際機関などドナーの影響力が無視できないため、ドナー側に問題の原因があるようなケースがないか、ドナー側のガバナンス問題に関する分析も行う。さらに、さまざまな分析の拠り所となるガバナンス指標の整備状況や問題点などについて調査・整理を行い、そのなかで財政の効率的な管理運営を模索する際に有用であると思われるものの抽出を試みることにしている。

ガバナンス関連の研究のうち、財政運営に焦点を絞ったもの、さらに開発途上国を主な分析対象とするものはまだ数が限られているため、研究会 1 年目では各委員が担当するテーマごとに先進国・途上国を問わず理論研究・実証研究・指標化などに関する文献調査やインタビュー調査を行い、研究会における議論を通じてより深い考察を行った。その成果をまとめたものが本報告書である。

来年度の研究会では、1 年目の調査で明らかになった課題や問題点について分担テーマごとに途上国の文脈のもとに論点を整理し、議論のリファインや分析の拡張を加えた再構築を行う。また、途上国における制度改革には開発援助とセットになった先進国の制度輸出（制度の有効性確認のための実験）の側面があると考えられるため、その成功例や失敗例の分析を通して先進国の財政（および予算）制度を途上国に応用する際の課題や障害となりやすいポイントを明らかにし、その解決策を探ることにしたい。それらの調査・分析結果を総合し、開発途上国における健全な財政運営を実現するための政策提言として最終報告書をまとめる予定である。

2010 年 3 月

編者

## 「開発途上国における財政運営上のガバナンス問題」研究会

- 主査：小山田 和彦 (開発研究センター 国際経済研究グループ)  
幹事：柏原 千英 (開発研究センター 開発戦略研究グループ長代理)  
委員：野上 裕生 (開発研究センター 専任調査役)  
小浜 裕久 (静岡県立大学 国際関係学部教授)  
近藤 正規 (国際基督教大学 教養学部上級准教授)  
花井 清人 (成城大学 経済学部教授)

## 目 次

第1章	開発途上国における課税とガバナンス …………… 1 —ベトナムの税制改革の残された課題— 花井 清人
第2章	開発途上国と債務管理におけるガバナンス …………… 27 柏原 千英
第3章	政策評価とアカウンタビリティ …………… 49 野上 裕生
第4章	財政の透明性と経済成長 …………… 61 —理論モデル構築に向けたメモ— 小山田 和彦
第5章	国際援助機関のガバナンス …………… 77 —IMF・世界銀行を中心に— 小浜 裕久
第6章	ガバナンス指標 …………… 101 —現在の動向と展望— 近藤 正規